

2025 年度 DSERO セミナーのご案内

関係者各位

まだまだ寒暖差の激しい日々が続いていますが、春の足音が聞こえてきています。皆様いかがお過ごしでしょうか。平素よりドローン測量教育研究機構(DSERO)の活動にご協力を賜りまして、ありがとうございます。

関係各位におかれましては年度末でお忙しい頃ですが、下記の日時におきまして DSERO セミナーを開催しますのでお知らせいたします。ドローン測量を活用したさまざまな話題が巷で賑わっていますが、今回は、i-Construction およびドローン測量データに関連した講演を2つ準備いたしました。

一つ目は、コベルコ建機株式会社の関口様による「i-Con は儲かるのか？」という土木施工分野の銭儲けの秘訣について解説いただきます。現在 i-Con に取り組まれている企業や i-Con に取り組みたいが、儲かるのか！？、という疑問や不安を具体的な銭勘定の観点から解説した内容となります。なお、本講演内容は DSERO セミナーにおいて第2弾となり、前回の第1弾も非常に好評で、実務に直結した内容と考えております。

二つ目は、2025年4月1日から実施される国土地理院によるジオイドの変更に関するもので、国土交通省国土地理院の鈴木様によるご講演です。ジオイドとは何か、なぜ変更になるのか、標高の数値が変わることによる影響等について解説いただきます。「土木設計業務等の電子納品要領」、「工事完成図書の電子納品等要領」の管理ファイルでもジオイド変更への対応が求められますので、本講演は今後の実務遂行に役立つものと考えております。

また、セミナー終了後に懇親会を開催いたします。講師の方々と情報交換いただき、今後の取り組みに活かさせていただければ幸甚です。関係各位のセミナーご参加をお待ちしております。

- ・日時：2025年4月23日(水) 13:30~17:00 (受付 13:00~)
- ・会場：OMM (大阪マーチャンダイズ・マートビル) 20階
近畿地域づくりセンター (近畿建設協会) 会議室
大阪府大阪府中央区大手前1丁目7-31 (大阪地下鉄天満橋駅上)
- ・セミナー参加費：① DSERO 会員 ¥4,000/人 ② 非会員 ¥8,000/人
- ・懇親会会場：ホテル京阪天満橋駅前1階 AOI (あおい)
Tel : 064-309-6855 <https://aoi-tenmabashi.owst.jp/map>
大阪府大阪府中央区天満橋京町2-13 『天満橋駅』から徒歩1分
- ・懇親会時間：18:00~20:00
- ・懇親会参加費：¥5,000/人 (先着50名)
- ・参加申込みは、web サイト (<https://dsero.org>) からお願いいたします。

<講演①>

- ・演題：「i-Con 銭勘定：実際どうなの？儲かるの？どうやるの？」

(講演時間：2時間 質疑応答含む)

- ・講演者：関口 伸吾 (コベルコ建機(株) 新事業推進部 シニアマネージャー)

- ・講演概要

建設 DX に対応した i-Construction は国交省によって推進されているが、中でも ICT 建機を用いた建設作業の効率化、省人化は大きな課題である。

講演では、i-Construction において、いくつかあるプロセスを簡略に説明、さらに実体験や失敗から学んだコツやポイントを詳しく説明する。特に他に例の見ない講演の重要な項目として、i-Construction 関係の積算の概要と従来比の利益について「どうすれば儲かるのか」の視点から解説するため、現場に対応しており視聴者には大変参考になると思われる。最後にコベルコ建機が提供する生産向上アイテムを紹介する。

<講演②>

- ・演題：「全国の標高成果の改定について (4月1日からのジオイドの変更)」

(講演時間：1時間 質疑応答含む)

- ・講演者：鈴木 啓 (国土地理院 近畿地方測量部)

- ・講演概要

2025年4月1日から、全国のジオイドが変更になり、各地の標高が変わるので、土木関係の事業にも、大きな影響を及ぼすと考えられる。国土地理院は、電子基準点、三角点、水準点等の基準点の標高成果について、長年の地殻変動で累積した標高成果のズレや、水準測量の距離に応じて累積する誤差を解消するため、令和7年4月1日に衛星測位を基盤とする最新の値「測地成果2024」に改定した。

講演では、全国の標高成果の改定に関する概要や新しい標高成果の改定量について紹介する。例えば、「土木設計業務等の電子納品要領」、「工事完成図書の電子納品等要領」の管理ファイルでもジオイド変更への対応が必要と考えられ、具体的にどのように処置するかが課題になるだろう。地質調査におけるボーリングの記載でも、実施地点の座標(x,y,z)を記録することになっていますが、ジオイドの変更に対応してどのような記録をすればいいのかなど検討の必要が生じると考えます。講演では、質疑応答も含めて丁寧な解説が行われる。

以上